

カラー
Zantedeschia
(サトイモ科)

水芭蕉やアンズリウムと同じサトイモ科で、花卉に見えるのは仏炎苞。本当の花は苞の中心にある黄白色の棒状の肉穂花序。湿地性と畑地性があり、前者は大型で白が中心、後者は小型で黄や赤などカラフル。苞はほぼ満開で出荷され、変化に乏しい。

ベンジールアミノプリン(BA)を苞に散布すると萎れが遅延する。水あげはよいが、後処理剤を使わないと水に浸かった茎が腐敗しやすい。

1) 品質評価基準

項目	判定基準	備考
苞の萎れ	触ってみて、 A: 硬く張りがある B: やや軟らかい C: 軟らかい D: 軟らかく、視覚的に褐変が目立つ	
苞の変色・褐変	A: 変色・褐変がない B: 縁がわずかに変色 C: 縁がわずかに褐変 D: 苞の10%程度が褐変	苞の縁から変色が始まり、内側に巻く
その他		

2) 留意点

流通は花茎のみで葉は付いていないか、葉は別に束ねて花と同じケースに入れて出荷されることがある。

アンズリウムは肉穂花序が黒変するが、カラーは最後まで黄色のままに変化に乏しいので、苞の変化で判定する。

肉穂花序は下から上へ開花、開葯し、白い花粉を出す。

3)開花, 4)チェック事項の画像は湿地性であるが、品質評価基準は畑地性も共通。

3) 開花



4) チェック事項

苞の変色・萎れ



肉穂花序の変色

